

7 保育形態と保育方法

1 形態を考えることこそが保育の中心

今、乳幼児期の保育をめぐるのは、さまざまな保育が行われています。一部の地域では、私立幼稚園を中心に幼稚園選びが過熱し、園児獲得のため、体育や英語、絵画等の専門講師が行う活動を売り物にしている園もあります。

もちろん、どんな保育を行うかは、公立幼稚園は別として、園独自に決めていいのですが、その保育が子どもにとってふさわしいものかどうかの検証はきちんと行われなければなりません。

とくに保育の形態については、これまで保育者レベルで考えてみる機会がほとんどありませんでした。実習園や就職した園の保育方針に沿って保育を行うことが優先されてしまうと、この園は一斉保育の園、あの園は自由保育の園といったような言い方で、なぜそのような保育の形態で保育をするのかという議論にいたらないことがほとんどだったのです。

2 一斉か自由かの議論

園の保育を表現する言葉として、一斉保育か自由保育かという区分の仕方も大ざっぱ過ぎる点があります。一斉保育といっても、小学校のような教科的な活動を一日に一つずつ行っていくような保育があったり、また時間を細かく区切り、次から次へとさまざまな内容をこなしていくような保育もあります。また自由保育といっても、保育者は何もせずただ子どもが自由に遊んでいる園もあれば、環境をきちんと考えて保育を行っている園もあります。

本来、一斉か自由かという議論は、園の保育を表す言葉ではなく、どの園の保育でも、一斉（または設定）か自由かは選択可能であり、保育者が中心となって決めていい保育の方法なのです。

一つの例として、絵を描くときに必ずクラスみんなで描かなければならないかどうかを考えてみましょう。絵画制作の時間のように保育の枠が決まっている園では、みんな一緒に描くということが当たり前になっています。ところが、同じような課題の絵を描くときであっても、一人ひとりの絵について丁寧に付き合ってみようと思うと、必ずしも20人や30人の子どもたちが一斉に描くことがいいという訳ではありません。

保育の中では、遠足に行ったときの絵、夏休みの思い出、運動会の絵など、

さまざまな場面で保育者が絵を描かせたい場面はあります。その一方で、子どもが描きたくなるときはどんなときかを保育者側が研究してみる必要はないのでしょうか。

砂場ならばいつでも遊ぶことができます。ところが絵の具などは保育者が用意したときしかできません。子ども自身が満足するまでじっくり絵に取り組み、そこに保育者もじっくりかかわるような機会を作ってみることも保育の中では必要なことなのです。

そう考えると、たとえ一斉に絵を描く場面でも、1週間位絵を描く場所を作ってクラスの様子を見たり、クラスの半分だけの子が描いて、他の子は外で遊んでいるといったような描き方も考えられます。要は一人ひとりの子どものつぶやきや思い、発想のおもしろさをどのようにすれば知ることができるか、その工夫や個別的なかかわりが必要になってくるのです。

さらに、絵を描くことが苦手な子や自分をうまく表現できない子等に対して、保育者はより丁寧にかかわらなければなりません。友達が描いた絵の楽しさ、おもしろさをさりげなく紹介するだけでも、絵を描くことが苦手な子にとって描いてみようかと思うきっかけになるかもしれません。

保育でどのような形態を選択するかで、子どもの見え方が違ってきます。いつも同じような形態で、子どもの見え方がマンネリになり子どもが見えなくなることだけは避けなければならないのです。

3 保育者が方法を柔軟にしてこそ保育はおもしろい

園で保育の計画をする場合、園全体で考えなければならないこと、学年で考えなければならないこと、各クラスで柔軟に対応できることをまずは区別してみます。

園全体や学年で決められていることは、そう簡単に変えることはできませんが、クラスで行う活動では、保育者が少し発想を変えると保育のやり方に幅がでてきます。そのような小さな活動の積み重ねを、今度は保育者同士で共有できると、学年や園全体の保育も変えていく原動力になります。

クラスで自由に廃材で遊ぶような保育ができない園に勤めていた保育者が、園全体の行事で、親子で廃材遊びを行ったことをきっかけに、その後もクラスで廃材遊びができるように保育に変えていったという実践があります。

そのような園と比較すると、自由に廃材で遊べるのが当然といった園の保育者の方が、子どもが自由に遊んでいる廃材に対して、無関心になっている場合もあります。

保育にこうしたらいいという正解はありません。日々、子どもとかわる中で、どうしたら子どもへの理解が深まり、保育が楽しくなるのかを、保育者自身が模索していくことが大切なのです。

(渡辺英則)

参考文献

戸田雅美「保育をデザインする——保育における「計画」を考える」21世紀保育ボックス、フレーベル館、2004年

大豆生田啓友「いま、幼稚園を選ぶ——あくまでも子どもが主役」赤ちゃんとママ社、2004年

【教育課程】

【年間指導計画】

- 4期(11月上旬から12月下旬)のねらい
 - ・ 友達との遊びの中で考えを受け入れながら共通の目的を持ち、自分で遊びを進めていこうとする。
 - ・ 学級全体の課題にグループや個で取り組んでいく楽しさややり遂げた満足感を味わう。

* 子どもの実態から、保育環境の見直しを図る。特に、5歳児の遊びの充実を考え、遊戯室、みんなの部屋の環境を準備する。

【週の指導計画】

- 12月第3週のねらい
 - ・ 互いに考えを出し合ったり、受け入れ合ったりして遊びを進めていく。
 - ・ 目的に向かってグループや個で力を出し合って取り組み、楽しさを味わう。
 - ・ 自然の中の発見や近隣の行事参加で、喜びや楽しさの感動体験をする。

【日の指導計画】

○12月19日の日案

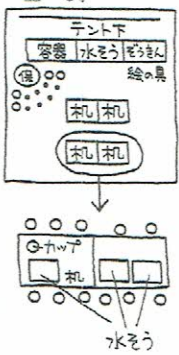
「○」は予想される幼児の姿 「●」は教師の援助

時刻	予想される生活の流れ	環境の構成	予想される幼児の姿・教師の援助
9:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登園する 所持品の始末をする 当番活動をする 誕生会の係を定める 好きな遊びをする おうちこっこ 積木 巧技台 コマ回し キングブロック 指人形 誕生児プレゼント作り 中あてドッジボール 縄跳び サッカー 砂遊び 鉄棒 フープ などする 	<p>〈園庭 保育室 遊戯室 他〉</p>	<p>〈好きな遊び〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お互いのイメージを出し合いながら遊ぶ。 ○遊びが楽しくなるように、自分の考えを出したり、友達の影響を受け入れたりする。 ○友達とルールのある遊びをする中で、自分の力を出していく。 <ul style="list-style-type: none"> ●イメージの実現のために必要な助言をしたり、安全面を考えて援助したり、必要なものを提示したりしていけるようにする。 ●友達との遊びで、共通の目的を意識して取り組めるように言葉をかけたり、幼児の考えた方法を大切に受け止め、実現できるようにしていく。 ●友達同士で進めていけるように、ルールが共通になるようにしていく。
10:45	<ul style="list-style-type: none"> ・ 片付け 手洗い トイレ ・ 遊戯室に集まる フォークダンス 「シングルベル」他 ・ 指人形で遊ぶ 	<p>〈校庭・体育館〉</p>	<p>・ フォークダンス ○友達と曲によってフォークダンスをする楽しさを味わう。 <ul style="list-style-type: none"> ●自分でパートナーを決め組んで踊ることで楽しさを共有したりみんなとすることを楽しむ。 </p> <p>・ 鬼遊び ○友達と遊ぶ中で、自分の力や勇気を出して遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ○遊びを進める中で、互いに気づきを言ったり受け止めたります。 ○遊びをより楽しくするために、考えを動きに出していく。 ○みんなでする遊びの目的に向かって、やり通すことを楽しむ。 ●足の速い子を追いかけたり、すばやく助ける子を認めていく。 ●捕まえたのに応じないなどのトラブルに、納得できるように仲介をしていく。 ●頑張る姿を認め力が出ない姿には励まし楽しさを味わわせる。 ●マットの位置や動きの範囲など、安全面に留意する。 </p>
11:55	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼食時の活動をする 		
12:40	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校庭に行く (または、体育館) 鬼遊び「おおかみとこやぎ」 好きな遊び 鬼遊び 中あてドッジボール サッカー フープ コマ回し 絵本 指人形 などする 	<p>〈降園時にする活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○みんなで声を合わせて歌うことを楽しむ。 ○指人形劇を友達とすることを楽しんで関心をもって静かに聞いたりする。 ○進んで自分の身仕度をする。 <ul style="list-style-type: none"> ●よく歌っている姿は認め、歌詞がわからないところは知らせていく。 ●友達と力を合わせて指人形劇をしている姿を認め、他のグループに刺激になるようにしていく。 ●今日楽しかった遊びに触れ、来週も意欲的に登園できるようにしていく。 	
13:15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 片付け・トイレ・手洗い ・ 話を聞く 歌を歌う ・ 友達の指人形劇を見る ・ 降園準備をする 		<p>〈みんなでする遊び〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指人形 ○友達と共通の目的を意識し、個々が力を出して遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ○互いにイメージを出し合いながら進めることを楽しむ。 ○友達と話し合いながら、目的に向かって取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ●気持ちを合わせて取り組んでいる姿を認め励ましていく。 ●仲間との力関係を見ながら互いに力を出し合えるようにしていく。 ●イメージが続かない時は、ヒントを出していく。
14:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 降園する 		

図VIII-10 事例：教育課程から短期指導計画作成へ（J幼稚園 3年保育5歳児）

出所：J幼稚園園内研究会資料

(保育所・幼稚園どちらでも使えます)

7月 ○日 ○曜日		実習生氏名 ○ ○ ○ ○	
3歳児 ほし組 20人 (男児 10人 / 女児 10人)			
子どもの姿	暑くなり、シャワーや手作りおもちゃで水遊びを楽しんでいる。	主な活動	色水遊び
		ねらい	色水の美しさや不思議さに興味を持ち、ジュース屋さんを楽しむ。
		内容	<ul style="list-style-type: none"> 水に絵の具を混ぜて色水の変化を知る。 色水を容器に入れて飾ったり見せ合ったりする。
時間	環境の構成	予想される子どもの活動	保育者の援助・配慮
00:00	<ul style="list-style-type: none"> 水桶、絵の具、スプーン、プリンやゼリーのカップ、ペットボトルを半分に切った物、机、ぞうきんを準備しておく。 テントの下に机を並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●遊びを通して育てる 幼児教育は遊びを通しての指導であることを考えると、この場面で子どもは、ジュース屋さんの遊びにすでに入り込んでいます。この理解から、活動は子どもが勝手に遊んでいる気持ちになるようにとの願いから、「保育者のジュース屋さんを見る。」に変えてみました。説明も、子どもにとっては遊びになるような言葉の工夫が必要です。 ◎ジュース屋さんをする。 話を聞く。 保育者のジュース屋さんを見る。 好きな容器を選ぶ。 容器に色水を入れて遊ぶ。 混ぜる。 見せ合う。 飾る。 かたづけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の援助・配慮 アトリエ着を着てテラスに座り、見本のジュースを見せながら、これから何が始まるのか、関心が持てるようにする。 いろいろな容器から好きな物を選び、楽しく遊びに入れるようにする。 スプーンを使って容器に入れるようにことばがけをする。 単色だけでなく、色を混ぜるといろいろな変化することを知らせる。 きれいな色ができたらほかの子どもたちにも見せて、色の混ぜ方を考えるきっかけにする。 なんのジュースを作ったか、ひとりずつの話を聞き、満足感が味わえるようにする。 入れ物を洗ったり机をふいたりして、みんななかたづけをするように促す。 アトリエ着のかたづけをする。
00:20	<ul style="list-style-type: none"> テント下の机に並べて飾る。 	<ul style="list-style-type: none"> 飾る。 	<ul style="list-style-type: none"> なんのジュースを作ったか、ひとりずつの話を聞き、満足感が味わえるようにする。
00:30	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの発達のようなすとらえよう このように加えることで、3歳児の発達のようなすが具体的に伝えます。 	<ul style="list-style-type: none"> かたづけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 入れ物を洗ったり机をふいたりして、みんななかたづけをするように促す。 アトリエ着のかたづけをする。
<p>〈反省・評価〉 天気がよく、テラスでジュース遊びができてよかったです。「いちごジュース できたよ」「りんごジュース のんで」などと、ジュースに見たてで友達同士でお互いに言葉を交わしながら楽しく遊んでいる子どももいました。最初は容器いっぱい色水ジュースを入れる遊びを楽しんでいましたが、あつという間に色を混ぜ合い、きれいな色も汚い色にも変わっていました。周りも水びたしになり、もっと環境を考えておけばよかったと思いました。</p>		<p>〈指導・助言〉 ジュース遊びにはびったりの天気でしたね。3歳児なので、きれいにジュースを作るといのは難しいです。混ぜてもきれいな色になる絵の具を準備しておけば、多少はだいじょうぶです。周りがぬれるのはわかっていることなので、そのつど子どもたちにことばがけをしたり、こぼしたらふくように促したりするなど、考えていきましょう。</p>	
		担当者	

※「子どもの姿」「ねらい」「内容」「環境の構成」については、P.10~15の該当するところを必読！ 各欄はつながっています。

●色水からいろいろな経験を

予想される実際の活動を見ると、色水を作ったり混ぜたりする活動が主なので、その点を加えたいですね。



●必ず試しておくことが大切!

どのように見せていくのか、あらかじめ試しておきましょう。保育者が子どもの目の前で、絵の具に水を入れて見せることで、子どもは遊びに対する意欲を持つことができます。

●保育者の思いどおりに子どもを動かすのが保育ではない

子どもが主体的に環境にかかわり、発達に必要な体験を重ねていくように遊びを工夫しましょう。子どもたちの気づきや驚きを受け止め、共感していきましょう。豊かな感性を養うような援助事項が必要です。3歳児は、色水をジュースに見たてたりジュース屋さんのやりとりを楽しんだり飲むまねをしたりして、活動の広がりが予想できます。この点も子どもの活動と援助事項に取り入れたい点です。

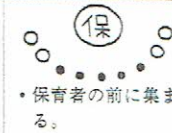
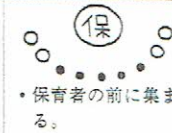
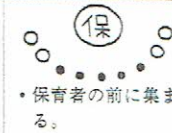
●子どもの活動をほかの子どもに見せたり知らせたりすることで、喜びや発見を共有し、経験の幅を広げることになります。保育者も子どもと同じ気持ちで、感動を表情豊かに伝えましょう。

●反省して、次のねらい・内容や環境の構成へつなげましょう。

3歳児 ④部分実習指導案の例(2)あたまかたひざボン(遊びはP.55参照)

(保育所・幼稚園どちらでも使えます)

※「子どもの姿」「ねらい」「内容」「環境の構成」については、P.10～15の該当するところを必ず！各欄はつなごうがっています。

6月 ○日 ○曜日		実習生氏名 ○ ○ ○ ○												
3歳児 さくら組		18人 (男児 9人 / 女児 9人)												
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 歌や手遊びが好きな子どもたちが多い。 音楽の遊びを、友達とかかわりを持ちながら楽しむようになってきた。 	主な活動 手遊び「あたまかたひざボン」をする。	ねらい 友達といっしょに手遊びを楽しむ。 内容 <ul style="list-style-type: none"> リズムに合わせて指や体を動かし、表現して遊ぶ。 体の部位をタッチし、その名前を知る。 											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>環境の構成</th> <th>予想される子どもの活動</th> <th>保育者の援助・配慮</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>00:00</td> <td>  <ul style="list-style-type: none"> 保育者の前に集まる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 手遊びをする「あたまかたひざボン」。 体の部位の名前を当てて遊ぶ。 保育者の動きに合わせていっしょに遊ぶ。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 「頭」「肩」「ひざ」などを順番に両手で触り、名前を当て、次の手遊びにつながるようにする。 保育者が楽しむ姿で、自分たちもやってみたいと、子どもたちが関心を持てるようにする。 いっしょに手遊びをして、うまくできたことを褒め、子どもたちの気持ちを高めていく。 「め・みみ・はな・くち」のところをアレンジしながら、体のいろいろな部位の名前を知らせていく。 友達のをたたいたり頭をなでたりする動きを「め・みみ・はな・くち」のところに入れて、友達と楽しくかかわれるようにする。 「ボン」のところを「お隣さんと握手」の動作に変え、共通の思いを持って楽しめたことが感じられるようにする。 </td> </tr> <tr> <td>00:10</td> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 友達にタッチする。 握手をする。 手遊びについて話し合う。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 友達にタッチする。 握手をする。 手遊びについて話し合う。 </td> </tr> </tbody> </table>	時間		環境の構成	予想される子どもの活動	保育者の援助・配慮	00:00	 <ul style="list-style-type: none"> 保育者の前に集まる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手遊びをする「あたまかたひざボン」。 体の部位の名前を当てて遊ぶ。 保育者の動きに合わせていっしょに遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「頭」「肩」「ひざ」などを順番に両手で触り、名前を当て、次の手遊びにつながるようにする。 保育者が楽しむ姿で、自分たちもやってみたいと、子どもたちが関心を持てるようにする。 いっしょに手遊びをして、うまくできたことを褒め、子どもたちの気持ちを高めていく。 「め・みみ・はな・くち」のところをアレンジしながら、体のいろいろな部位の名前を知らせていく。 友達のをたたいたり頭をなでたりする動きを「め・みみ・はな・くち」のところに入れて、友達と楽しくかかわれるようにする。 「ボン」のところを「お隣さんと握手」の動作に変え、共通の思いを持って楽しめたことが感じられるようにする。 	00:10		<ul style="list-style-type: none"> 友達にタッチする。 握手をする。 手遊びについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達にタッチする。 握手をする。 手遊びについて話し合う。
	時間	環境の構成		予想される子どもの活動	保育者の援助・配慮									
00:00	 <ul style="list-style-type: none"> 保育者の前に集まる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手遊びをする「あたまかたひざボン」。 体の部位の名前を当てて遊ぶ。 保育者の動きに合わせていっしょに遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「頭」「肩」「ひざ」などを順番に両手で触り、名前を当て、次の手遊びにつながるようにする。 保育者が楽しむ姿で、自分たちもやってみたいと、子どもたちが関心を持てるようにする。 いっしょに手遊びをして、うまくできたことを褒め、子どもたちの気持ちを高めていく。 「め・みみ・はな・くち」のところをアレンジしながら、体のいろいろな部位の名前を知らせていく。 友達のをたたいたり頭をなでたりする動きを「め・みみ・はな・くち」のところに入れて、友達と楽しくかかわれるようにする。 「ボン」のところを「お隣さんと握手」の動作に変え、共通の思いを持って楽しめたことが感じられるようにする。 											
00:10		<ul style="list-style-type: none"> 友達にタッチする。 握手をする。 手遊びについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達にタッチする。 握手をする。 手遊びについて話し合う。 											
〈反省・評価〉 短い時間でしたが、楽しい雰囲気の手遊びをすることができました。 子どもたちが知っている手遊びを少しアレンジしたことで、体の部位の名前に興味を持ち、友達ともかわりながら楽しめたように思います。握手・なでる・肩たたきなどの動きを入れることで、友達といっしょに手遊びを楽しむことができました。	〈指導・助言〉 お疲れさまでした。子どもたちは、友達と楽しそうに会話しながら手遊びをしていましたね。動きがわかりにくい子どもに目配りはできましたでしょうか？ より大きな動作と、よりはっきりした言葉で示すことで、子どもはわかりやすくなり、楽しさが伝わります。これからも、子どもたちに添った保育を目指して、がんばっていきましょう。 担当者													

●具体的に子どもの活動を想定してもう少し具体的に書きましょう。



●「おしり」って言った子どもが喜ぶだろうな！どのようにアレンジするのが具体的に考えておくと、指導のときに安心です。「おでこ」「あご」など、部位の名前を知らない子どももいます。楽しみながら、ゆっくりと伝えていきましょう。

※予想される子どもの活動を記入しましょう。

♥友達とかかわるような動きを取り入れたことで、友達といっしょにすることの楽しさを味わう機会になったでしょう。この時期に育てたいねらいに向かって、経験させた心情です。

○…子ども ●…実習生

3歳児 ⑤ 責任実習指導案の例(幼稚園)

※「子どもの姿」「ねらい」「内容」「環境の構成」については、P.10~15の該当するところを必読! 各欄はつながっています。

▼この子どもの姿に誘導させた「クルクルプロペラ」作りは、日常の活動経験を生かした遊びが広がるよい計画ですね。

●「ねらい」と「内容」は? 責任実習なので、一日を見通した「ねらい」と「内容」になります。例えば、「友達とふれあいながら、いろいろな遊びを楽しむ。」など、「ねらい」は大きくとらえましょう。そのための内容として、「ふたつめの文をいろいろな材料や道具を使って、工夫して遊ぶ。」とすると、「クルクルプロペラ」作りや好きな遊びでの活動など、広く含まれることになります。

●やってみた? 準備する画用紙に、どのように線を入れたものを用意するのか、図示するとわかりやすいです。

●動まずだけでは... 作り方がわかりにくい子ども、作る早さの違う子どもに、どう対応するか考えておきましょう。

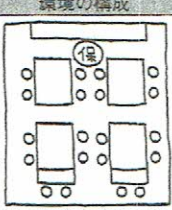

●遊ぶために! 「場所を移動する」または「机とイスをかたづけ」などの、環境の構成が考えられます。



●いつも子どものことを考えて書こう このために保育者はどのようなかかわり(援助)をするのか、具体的に考えましょう。

10月	○日	○曜日	実習生氏名	○ ○ ○ ○
3歳児	ばんだ組	20人	(男児	11人 / 女児 9人)
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 数人の子どもたちが、遊ぶ物を作り、イメージを広げて楽しんでいる。 自然の変化に興味を持ち始めている。 		ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 友達と言葉のやりとりをし、楽しく遊ぶ。 クルクルプロペラを作り、回転するようすを楽しむ。
内容			内容	<ul style="list-style-type: none"> 友達と言葉のやりとりをし、楽しく遊ぶ。 クルクルプロペラを作り、回転するようすを楽しむ。
時間	環境の構成	予想される子どもの活動	保育者の援助・配慮	
9:00		<ul style="list-style-type: none"> ◎登園する。 あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 笑顔でひとりひとりの子どもと握手をしながらあいさつを交わし、健康観察をする。 持ち物のかたづけは、子どもの状況に合わせて援助をしたり見守ったりする。 	
9:10		<ul style="list-style-type: none"> 持ち物のかたづけをする。 出席ノートにシールをはる。 ◎好きな遊びをする。 ままごと、お絵描き、折り紙、ブロックなど。 ◎かたづけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びをする子どもたちを見守ったり、いっしょに遊んだりしながら、場の雰囲気盛り上げる。 子どもたちが進んでかたづけをするように、ことばがけをしながらいっしょに行なう。 	
9:50		<ul style="list-style-type: none"> ◎製作「クルクルプロペラ」を作る。 話を聞く。 長方形の画用紙に絵を描く。 線の部分をハサミで切る。 折って完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作る物の見本を見せながら話し、興味を持てるようにする。 フェルトペンを使って、好きな絵を描くように伝える。 ハサミの持ち方や切り方を確認し、安全に使えるようにする。 最後まで作れるように、ひとりひとりを励ます。 できあがったら、ハサミやフェルトペンをかたづけるようにことばがけをする。 高い所から落とすとクルクル回ること気に気づけるように、何回も繰り返す。 各自がどのように遊んだか、保育者が話を聞き、満足感が持てるようにする。 	
11:00		<ul style="list-style-type: none"> ◎作った「クルクルプロペラ」で遊ぶ。 ◎かたづけをする。 ◎好きな遊びをする。 総合玩具、砂場遊び、縄跳びなど。 ※環境を整える内容ですので、環境の構成に書きます。 ◎かたづけをする。 ◎手洗い・うがい、排せつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※クルクルプロペラは、どこにどのようにかたづけるのか決めておき、子どもたちに伝えましょう。 雨上がりのときは、ぞうきんで総合玩具をふき、安全に遊べるようにする。 友達や保育者といっしょに、元気に体を動かして遊べるようにする。 使った物は元の場所にかたづけるように、ことばがけをする。 しっかりとうがい・手洗いをし、病気の子防を行なう。 	

○...子ども ◎...実習生

時間	環境の構成	予想される子どもの活動	保育者の援助・配慮
12:00	 ※弁当時、準備する物は図のほかにも文章でも書きましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ○弁当を食べる。 •机をふく。 •準備をする。 •歌をうたう「おべんとうのうた」。 •あいさつをする。 •弁当を食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> •落ち着いて食事ができるように、静かにことばがけをする。 •楽しい雰囲気ですら食事ができるようにする。
12:40		<ul style="list-style-type: none"> ○好きな遊びをする。 •パズル、ブロック、絵本、ごっこ遊びなど。 	<ul style="list-style-type: none"> •子どもたちが安全に遊んでいるか見守る。 •いっしょに遊びながら、場が盛り上がるようにする。
13:00 15		<ul style="list-style-type: none"> ○かたづけ。 	<ul style="list-style-type: none"> •使った物はきちんと元の場所に入れるように、ことばがけをする。
13:40 35		<ul style="list-style-type: none"> ○手洗い・うがい、排せつをする。 ○絵本を見る「かぜがふいてきた」。 	<ul style="list-style-type: none"> •秋らしい絵本を読むことで、季節感を伝える。 •登場人物の気持ちが伝わるように、感情を込めて読む。
13:50 45	※10分間では、降園準備に十分な援助ができないかもしれません。あと5分は余裕を持ちたいです。	<ul style="list-style-type: none"> ○降園準備をする。 •持ち物をカバンに入れる。 ○歌をうたう「さよなら」。 ○降園する。 	<ul style="list-style-type: none"> •身じたくができていないか、見守ったり援助をしたりする。 •ひとりひとりにあいさつをして笑顔で送り出し、明日へつなげる。
14:00			

●忘れないうちに書いておこう

子どもの準備について、援助・配慮事項はありませんか？記録を読み返して、保育者は何をしていたか思い出していきましょう。具体的に書いておくことで、保育をきちんとイメージすることにつながります。

●感謝の気持ちを表現しよう

あいさつを通して、お弁当を作ってくれた保護者や湯茶の準備をしてくれた職員さんへの感謝の気持ちを表現していきましょう。

●すべての子どもの活動に配慮を

子どもに健康な習慣をつけるために、保育者がしなければならない援助があるはずですよ。

〈反省・評価〉

今日の保育は、緊張のためすべてがうまくできませんでした。朝の登園時は、子どもたちを迎えるためにずっと靴箱の所に立っていました。登園して来た子どもたちにあいさつはできたものの、その後室内でどのような遊びをしていたのか、まったく把握することができませんでした。製作については、週のねらいに沿った活動ができたのでよかったです。初めての責任実習を経験して、たくさん学ぶことができました。自分の立ち位置やどのようなことばがけをするのか、遊びの細かい案などです。明日から自分で考え、がんばっていきましょう。

〈指導・助言〉

反省会で言われたとおり、必死になりすぎて、子どもたちのようすを把握できなかつたところがありましたね。初めてのことで、うまくいかなくて当然です。ここから自分なりに考え、勉強して、次回は少しでもいいところが増えるようにがんばってください。

♥見通しが持てることは大切です。

担当者



●大切なこと！

好きな遊びでは、3歳児のこの時期の発達をふまえて考えられる援助事項があると思われまふ。例えば友達のかかわりが多くなるため、けんかが起きる、言葉を交わす心地よさを感じる、さらに子どもの姿に書かれていることから、生活や好きな遊びの中で取り上げるべき援助がもう少し考えられるのではないのでしょうか。目の前の子どもの経験をふまえて、興味・関心・発達に即しつつ、「今、このクラスこの日」を大切にしたい日になることを願っています。

●反省で忘れてはいけない視点

- 子どもの発達面から見た「ねらい」の検証…「ねらい」は達成できたか？
- 保育者の保育そのものに対する反省。

4歳児 ⑤ 責任実習指導案の例 (幼稚園)

※「子どもの姿」「ねらい」「内容」「環境の構成」については、P.10～15の該当するところを必ず! 各欄はつながっています。



●全体としてのねらいをねらいを達成するために、一日のうちに経験させたい内容を、部分保育だけでなく一日を見通して書きます。この日は戸外遊びが中心なので、ホールリレーも含めて戸外遊びに参加し、十分に体を動かす楽しさを味わうようにしたいですね。

※準備物、配置、手順(動線)を記しましょう。

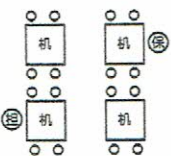

●4歳児の秋ならではの豊かで重なるなどについても見ていきましょう。

●子どもの姿から保育は始まる
子どもの姿に書かれている、走ったり跳んだりする活動に対する環境の構成・準備物はないのでしょうか。

●いっしょに!
保育者もいっしょに体を動かして遊ぶことが、子どもの運動量の増加につながります。

11月	○日	○曜日	実習生氏名	○○○○
4歳児	かき組	16人	(男児 10人 / 女児 6人)	
子どもの姿	遊びが活発になり、友達といっしょに園庭で走ったり跳ったりしている。 ※ねらいの方向性を示しましょう。	ねらい	経験したことを、さまざまな方法で表現したり、遊びに取り入れて楽しんだりする。	内容
			・戸外でさまざまなイメージを持って体を動かす。 ・いろいろなボールの運び方を知り、ゲームを楽しむ。	
時間	環境の構成	予想される子どもの活動	保育者の援助・配慮	
9:00		<ul style="list-style-type: none"> ◎登園する。 ・あいさつをする。 ・持ち物のかたづけをする。 ・出席ノートにシールをはる。 ◎身体計測をする。 ・衣服を脱ぐ。 ・身長・体重を測る。 ・衣服を着る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔であいさつを交わしながら、ひとりひとりの健康観察をする。 ・日付や数字に興味を持ってはるようすを見守る。 ・持ち物のかたづけを確認したら、出席ノートを持って計測を受けるよう伝える。 ・身長と体重を測り、成長したことを喜ぶ。 ・衣服の着脱ができているか見守る。 	
9:50		<ul style="list-style-type: none"> ◎好きな遊びをする。 ・絵本、粘土、絵を描くなど。 ◎かたづけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体計測を終えた子どもから、好きな遊びをして、ほかの子どもたちを待つように伝える。 ・次の遊びに興味をわく言葉をかけて、積極的にかたづけができるようにする。 	
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ・カラー標識3個、ライン引き。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ボールリレーをして遊ぶ。 ・戸外遊び用の帽子をかぶる。 ・ルール説明を聞く。 ◎2列に並ぶ。 ・ゲームをする。 ・1回目は両手で運ぶ。 ・2回目は片手で運ぶ。 ・3回目は両足に挟んで運ぶ。 ※リレーなので、順位を決めて、拍手をしたり負けてもがんばったことを認め合ったりして、次への意欲へつなげていきたいですね。 ・チームごとに盛り、保育者の話を聞く。 ◎好きな遊びをする。 ・総合遊具、泥団子作り、自転車など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから見やすい位置に立ち、全体を見渡しながら話をする。 ・ボールの運び方の見本を見せ、気持ちを高める。 ・ボールを持ったからカラー標識を回って、次の子どもにボールを渡すことを知らせる。 ・紅白の2チームに分かれ、それぞれ1列に並ぶように伝える。 ・子どもが戻ってきたら、後ろに並ぶようにことばがけをする。 ・2回目は、片手でカラー標識にタッチするように伝える。 ・3回目は距離を短くし、ジャンプしながら進んでカラー標識にタッチしたら、両手で持って帰るように伝える。 ・いろいろな運び方ができたことを喜び、遊びが楽しめるようにする。 ・楽しかったこと、ボール運びが難しかったことなどを話し合い、次への活動につながるようにする。 ・体を十分に動かして遊んでいるか見守る。 ・いっしょに遊び、場が盛り上がるようにする。 	

○…子ども ●…実習生 ◎…担任保育者

時間	環境の構成	予想される子どもの活動	保育者の援助・配慮
11:20	<p>●環境の構成は？ 場面が変わるので、記しましょう。</p>	<p>◎かたづけをする。</p>	<p>・かたづけの時間があったことを知らせ、進んでできるように助ます。</p> <p>・習慣づくように、ことばがけをする。</p>
11:40	<p>※準備物と、お茶やふきんなどを置く場所を書きましょう。</p>	<p>◎弁当の準備をする。</p> <p>・お当番がお茶・ふきんを取りに行く。</p> <p>・イスを並べる。</p> <p>・準備をする。</p>	<p>※準備の手順を考えて、それぞれについて援助事項を考えましょう。</p> <p>・食事の準備ができていない子どもには、ことばがけをする。</p>
12:00	 <p>●食事のテーブルをかたづけ、遊ぶスペースを作っていく。</p>	<p>◎弁当を食べる。</p> <p>・歌をうたう『おべんとうのうた』。</p> <p>・あいさつをする。</p> <p>・弁当を食べる。</p> <p>※そのために保育者は、具体的にどうしなければならぬでしょうか。</p> <p>・歯みがきをする。</p> <p>・かたづける。</p> <p>◎好きな遊びをする。</p> <p>・(室内)ままごと、ブロック、積み木など。</p> <p>・(戸外)泥団子作り、自転車など。</p>	<p>※弁当を楽しみにする場面です。歌をうたう場面での保育者の援助はありますか？</p> <p>・元気に遊ぶためには、好き嫌いを食べることが大事だと伝える。</p> <p>・正しい食事のしかた、食前・食後のあいさつが身につくようにする。</p> <p>・楽しい雰囲気になるようにする。</p> <p>※室内遊びの援助・配慮事項も書きましょう。</p> <p>・体を存分に動かして遊べるよう、安全面に気をつける。</p> <p>・戸外に出る子どもには、帽子をかぶるようにことばがけをする。</p>
13:20		<p>◎かたづける。</p> <p>◎手洗い・うがい、排せつをする。</p>	<p>・進んでかたづけができるように助ます。</p> <p>・清潔の習慣づけができるように見守る。</p>
13:30		<p>◎絵本を見る「くまさんのおでかけ」。</p> <p>◎降園準備をする。</p> <p>・持ち物をカバンに入れる。</p> <p>・歌をうたう「さよなら」。</p>	<p>・子どもたちが落ち着いたら絵本を読む。</p> <p>・降園準備のようすを見守り、忘れ物がないようにことばがけをする。</p> <p>・ひとりひとりにことばがけをして、明日も期待を持って登園できるようにする。</p>
14:00		<p>◎降園する。</p>	

●半歩先を

習慣は、11月ならほほ身についていると思われれます。少し進めて、「進んで健康な習慣を守るように」と、方向性を示しましょう。

●具体的に

「誘う」「助ます」「いっしょに行なう」など、具体的に考えておきましょう。

●前日の子どもの姿を思い出して

何を援助しなければならぬのか、具体的に書きましょう。例えば、席が決まらず、準備ができていない子どもには、どのような援助をするかなど。

●具体的に

大切な健康習慣です。前日の子どもの姿から、指導・援助事項を思い出しましょう。

●どのようにする？

大切な習慣です。かたづけ方もていねいに見守り、動まじたりすることも必要です。

※スペースを確保しておくということも、環境の構成に書きます。「子どもの動きを把握して、安全面に気をつける」などと、想定したことを具体的に書きましょう。

11月 4歳児の姿習



●大切なこと

子どもの姿に「友達のかかわり」があたり、「ねらい」に「さまざまな方法で表現したり、遊びに取り入れて…」とあるので、遊びの中でその点を取り上げて援助していきましょう。そうでなければ、「ねらい」の達成につながりません。それがもし無理なのであれば、「ねらい」のたて方が方向違いだったととらえられます。子どもの姿に、保育者の思い・願い→ねらいの設定→具体的な内容を考える→指導などへ反映されていくという流れを意識して日案を作成し、実践していきましょう。

〈反省・評価〉

一日実習を体験してみて、保育者の仕事がいかに大変であるかがわかりました。ボールリレーに入る前の話が短く、心が通じないままゲームを始めたので、子どもたちは楽しくなさそうにしていて、自分の力不足を感じました。大きな声ではっきりとことばがけをし、すばやく動くなど、ていねいな保育をしなければいけないと思いました。今日学んだことを、これからの実習に生かしていきたいと思っています。

〈指導・助言〉

一日実習、お疲れさまでした。子どもたちの実態とゲームの内容、どうすればゲームが盛り上がるのかなど、失敗することでたくさん学ぶことができます。反省会で振り返ったことを明日から実行して、がんばってください。

担当者

(保育所・幼稚園どちらでも使えます)

12月	○日	○曜日	実習生氏名	○ ○ ○ ○
5歳児	らいおん組	25人	(男児 15人 / 女児 10人)	
子ども	・ひらがなを書いたり読んだりして、文字に興味を持っている子どもが多い。 ・自分たちで語を考え、紙芝居や絵本を作る姿も見られる。 ※「あ」と「い」の言葉集めをするという意味でしょうか。	主な活動	言葉遊びをする。	
姿		ならい	言葉や文字に興味を持ち、イメージを持ったりに絵に描いたりして、カルタ作りを楽しむ。	
		内容	あいうえお順にみんなで言葉を考え、カルタを作る。	
時間	環境の構成	予想される子どもの活動	保育者の援助・配慮	
00:00	材料 	①「あ」「い」がつくものを書き集めをする。	・「あ」がつくもの「い」がつくものを子どもたちから引き出して、ひらがなに興味を持てるようにする。	
00:05		②カルタを作る。 ・話を聞く。 ・紙とフェルトペンを取りに行く。	・次の活動につながるように、話をする。 ・カルタ作りをすることを伝え、好きな文字を開き、 <u>友達と重ならないようにする</u> 。 ♥具体的でよくわかります。	・「あ」がつくもの「い」がつくものを子どもたちから引き出して、ひらがなに興味を持てるようにする。
00:20		・文章を考え、紙に書く。 ※保育者の援助がありません。大切な場面なので、子どもがイメージしたことを絵に表すような、適切な援助が必要です。	・丸にひと文字書き、小さい紙にはり、続きの文章を書くように伝える。 ・文字が書けない子どもには、薄く鉛筆書きをして、子どもが上からなぞるようにする。 ・みんなでカルタ作りの楽しさを感じられるようにする。	・同じ文字があってもよいことにするなど、友達と使いたい文字が重なった場合はどうするのか、考えておきましょう。
00:25		・絵を描く。		※手札のことでしょか? これではわかりにくいです。
00:35	・カルタを見せる。 	・みんなでカルタを見せ合う。	・完成したら全員で見せ合い、達成感が味わえるようにする。	・どんな援助? 「文字札の内容をイメージして、絵札に絵を描くように伝える。と書くこと、よくわかりますね。手札や絵札のイメージが持ちにくい子どもには、言葉集めを思い出ししながら、保育者がいっしょに考えたりヒントを出したりして、完成できるようにしましょう。
00:60		・かたづけをする。 ※どのような手順で見せ合いますか? 予想して書いておき、それに対する記述も考えて書きましょう。	・できたカルタで午後から遊ぶことを伝え、次の遊びへ期待が持てるようにする。	♥他児の作品にふれる場を設けたことは、「表現」活動を総合的にとらえた広い経験ですね。子どもの表現が、より量かなものになります。
〈反省・評価〉 大変な活動でしたが、とても勉強になりました。子どもによって製作時間がバラバラで、早くできた子どもに対しての配慮がありませんでした。遅い子どもに付き添い、全体に目が行き届いていませんでした。文字には興味を持っている子どもたちなので、文章を考えたり絵に描いたりする活動は楽しんでくれたようです。部分実習をして初めてわかることがたくさんありました。いろいろ教えていただき、ありがとうございました。		〈指導・助言〉 短時間でしたが、貴重な体験ができましたね。頭でイメージをして計画をたてても、実際にやってみると違うことや思いどおりにいかないことが出てきます。そのときどう対処するか、切り替えるかが難しいですね。今後の課題としてがんばってください。		
		担当者		

●「内容」の考え方
5歳児のカルタ作りには、経験させたい観点からの「内容」がたくさん含まれます。
・好きな言葉を考える。
・イメージを膨らませて絵を描く。
・文字に興味を持ち、などが考えられます。

●興味を膨らむように
「あ」「い」などが頭に付く言葉を子どもと集めることで、ひらがなに興味を持つようにしたいですね。ほかにも、文字カードを用意する、カルタの端のひと文字は保育者が書いておき、見せるなども考えられます。保育室の環境から文字を探すのもよいでしょう。子どもの活動とひらがなをつなぐ工夫をしましょう。

●同じ文字があってもよいことにするなど
友達と使いたい文字が重なった場合はどうするのか、考えておきましょう。

●どんな援助?
「文字札の内容をイメージして、絵札に絵を描くように伝える。と書くこと、よくわかりますね。手札や絵札のイメージが持ちにくい子どもには、言葉集めを思い出ししながら、保育者がいっしょに考えたりヒントを出したりして、完成できるようにしましょう。

♥他児の作品にふれる場を設けたことは、「表現」活動を総合的にとらえた広い経験ですね。子どもの表現が、より量かなものになります。

※文字については、書ける・書けないで子どもが優越感や劣等感を持たないように配慮しましょう。わからないところは、保育者がしっかり援助したり子ども同士で教え合ったりするなど、よい関係性の中で、遊びを通して文字に対する興味・関心を育てたいものです。

II 6 5歳児の実習

●余裕を持って時間を想定しよう
特に製作活動では、時間がかかる子どもとそうでない子どもが出てきます。必ず予測しておかなければなりません。「文章を考える」として「作る」ことは、分けてもよいでしょう。

(保育所・幼稚園どちらでも使えます)

※「子どもの姿」「ならい」「内容」「環境の構成」については、P.10～15の該当するところを必読！ 各欄はつなごうがっています。

●「内容」を再考

5歳児なので、
・ゲームのルールを守って集団で遊ぶ。
として、「内容」を深めたいですね。

まずはおまかせ！

●子どもが考えるようにフープと長縄の渡り方について話し合います。5歳児の2月なので、保育者が決めるのではなく、子どもと話し合いたいですね。例えば、フープは走り抜ける、ケンケンをする、長縄は落ちてはいけないなど、自分たちの意見をもとにしたルールづくりが考えられます。

※いろいろな場合を想定しましょう。遊びながら、子どもとルールを話し合ったり決めたりしていくことで、5歳児らしい活動になります。

●子どもの活動をこれは子どもの活動ではありませんね。
・ひとつのチームがゴールする。
などと書きましょう。

※ここも具体的にどうするのが書きましょう。拍手？話し合い？ どういう方向で認め合いますか。想定しておきましょう。

♥雨天ではなかったですが、あらかじめ想定しておくことは大切です。室内での活動は、戸外とは違った環境の構成や保育者の援助・配慮の必要性が生じます。戸外遊びを計画したときは、必ず考えておきましょう。

2月 ○日 ○曜日		実習生氏名 ○ ○ ○ ○	
5歳児 くじら組 20人 (男児 11人 / 女児 9人)			
子どもの姿	子どもたちは寒さに負けず、戸外で走り回っている。 ・渦巻きジャンケンや鬼ごっこなど、友達といっしょにゲームを楽しんでいる。	主な活動 「よーいどん ジャンケンポン」遊びをする。	ならい チームで協力し合って、ルールのある遊びを楽しむ。
		内容 ・友達とルールを話し合ったり決めたりする。 ・ゲームのルールがわかる。	
時間	環境の構成	予想される子どもの活動	保育者の援助・配慮
00:00	テラス ①保 フープ 長縄	●ジャンケン遊びをする。 ・話を聞く。 ●考えておこう！ どうやって2チームに分かれるのか、子どもの活動に手順を書いておきます。 ・チームを決めて帽子の色を変える。 ・コースに沿って走る。 ・ジャンケンをする。 ・勝ったら進む。負けたら並び直す。 ・勝ち続け、相手の陣地にひとりが入ったら勝ち。 ・勝負が決まる。	・準備ができた子どもから、テラスに出て座るように言葉をかける。 ・コースを設置して、何をするのか子どもたちが期待を持てるようにする。 ・2チームに分かれてジャンケン勝負することを伝え、仲間意識を高める。 ・互いの位置からスタートし、ぶつかったところで両手をタッチし、みんなで「ジャンケンポン」と声を出すように伝える。 ・勝ち負けを並んでいる子どもに伝え、次の子どものスタートを促す。 ・後出しなどのトラブル時は、子どもに投げかけ、ルールを話し合う。 ・フープの渡り方の約束を守っているか、見守る。
00:15		※負けた子どもは悔しい思いをしているので、褒める行為よりも拍手でたたえるくらいのほうが、行ないやすい表現ではないでしょうか。 ・もう一度ジャンケン遊びをする。	・勝ち負けを並んでいる子どもに伝え、次の子どものスタートを促す。 ・後出しなどのトラブル時は、子どもに投げかけ、ルールを話し合う。 ・フープの渡り方の約束を守っているか、見守る。 ・勝負がついたら、勝ったチームをみんなで褒め、達成感が味わえるようにする。 ・負けたチームには、次の勝負に勝てるよう励ます。 ・もう一度勝負し、決まったら互いのがんばりを認め合う。
〈反省・評価〉 雨天の場合は、室内にフープを並べてゲームをする予定でしたが、今日は好天に恵まれ暖かかったのでよかったです。ジャンケン勝負はとて盛り上がり、勝ったチームの喜び方がほんとうにうれしそうでした。負けたチームも、もう一回勝負をして、勝ってよかったです。チームとしての一体感が見られた気がします。「ジャンケンポン」と言うところを全員でいっしょに言えれば、もっと盛り上がったのではないかと思います。		〈指導・助言〉 ジャンケン勝負になると、とても燃えますね。やりすぎると跑きてくるので、ちょうどいい時間だったと思います。声もよく出てわかりやすかったですし、チームとしてまとまっていました。 ●5歳児らしい育ち 勝ち負けそのものよりも、勝ったときの心情・負けたときの心情を経験することが大切なのです。チームで共通の目的に向かって協力していく経験が、何より子どもの自信につながります。	
		担当者	

○…子ども ●…実習生